## フロンティア育成事業に関する FAQ

フロンティア育成事業全般についてよくある質問を以下にまとめております。応募をご検討いただく際にご利用ください。 応募書類の作成等に係るよくある質問に関しては「公募に関する Q&A」についてもご確認ください。

## (1) フロンティア育成事業全般について

	よくある質問	回答
1	フロンティア育成事業とは何ですか	脱炭素効果と産業創出の観点から、フロンティア領域(※)の特定とそのための技術開発を進めていくための事業です。 フロンティア領域を定めた後に早期に研究開発に着手しつつ、事業化の可能性を並行して見極め、より大規模な開発投資を促進、あるいは、スタートアップ創出や事業化をすることが必要不可欠であること、その際、特に GX 分野においては需要が見えづらいことから、研究開発と並行して事業リスクに対しても早い段階からアプローチをしていく必要があります。 フロンティア育成事業を通じて、2040 年頃の社会実装に向け、脱炭素効果削減と産業として成長するポテンシャルが相当大きいと思われるフロンティア領域で初期的な研究開発ニーズがあるテーマに関し、事業化の可能性や大規模な研究開発に進むべきかを見極めるための研究開発をNEDOが後押しします。
		(※) 将来的なポテンシャルが大きく、国としては重点投資していきたいにもかかわらず、技術開発や市場の不確実性といったリスクの高さや巨額の研究開発設備投資の必要性などの理由から、個社だけでは投資が進みにくいと考えられる領域のことです。2024年6月、経済産業省イノベーション小委員会中間とりまとめにおいて、継続したイノベーション成功モデルの実現のため、「技術・アイディア」から「新たな価値」「市場創造・対価獲得」に至るまでの横断的な取組として、今後、国による探索・重点支援に取り組むことが示された技術領域を指しています。
2	フロンティア育成事業とエネルギー・環境新技術先導研究プログラム(エネ環)や新産業・革新技術創出に向けた先導研究プログラム(新新)との違いは何ですか?	事業者が、NEDOがフロンティア領域ごとに設置するPD (Program Director)と密に連携をとりながら研究開発を実施する点に特徴があります。具体的には、本事業成果の発表方法や事業化などの出口戦略について検討を行うことや、事業化の可能性や大規模な研究開発に進むべきかの見極めなど、PDが研究開発の進捗管理だけでなく、成長性の見極め及び成果の出口戦略検討について後押しを行います。そのため、実施可能な体制を産学連携に限定しない(企業のみなどの応募可能)、実施期間・事業規模を公募課題ごとに柔軟に設定する点においても、エネ環や新新とは異なっています。フロンティア育成事業の公募要領及び別添資料も併せてご確認ください。
3	研究開発成功時に <b>大きなインパクト</b> のある研究開発テーマを募集とのことだが、 大きなインパクトの想定を教えてほしい。	基本的にエネ環や新新と同様に、大きな CO2 削減効果や省エネ効果が見込めるか、我が国の経済活性化に大きく貢献できるか、という観点でインパクトを評価します。さらに、フロンティア育成事業については、新たな産業、ビジネスが創出できるか、という点についても評価します。
4		研究開発の実施と並行して、スタートアップの設立や事業化を担う企業とのマッチング等に取り組んでいただくことを想定しております。
5	(事業化に向けて取り組むことが条件) について、事業開始後に条件が破られた 場合にペナルティーはあるか。	中間評価等において当該取組が不十分と判断されれば、研究開発を中断することがあり得ます。
6	公募採択の審査ではどのようなポイント が重視されるか。	フロンティア育成事業であるため、革新性・独創性や波及効果・インパクトを重視するのはもちろんですが、不確実性が高い研究課題であるため、リスクが高いことを認識した上で、不確実性を下げる工夫がなされているということや、 当初の想定と異なるリスクが生じた場合の見直しのスケジュールやアイディアが検討されているかということも重視します。

## (2) フロンティア領域及び各領域ごとの課題設定について

よくある質問		回答
7		今後 NEDO/TSC が中心となりフロンティア分野における研究開発やプレイヤー等の探索調査を重点的に行い、さらに政策当局である経済産業省とも連携し、新たなフロンティア領域を設定することを予定しております。
8	エネ環・新新は例年RFI(Request for Information 情報提供依頼)の結果も活用して課題設定していると聞きました。フロンティア育成事業については、領域ごとの課題はどのように設定されるのですか?(外部からの提案が可能かなど)	フロンティア育成事業においても課題設定において RFI を活用する予定です。さらに、TSC が行うフロンティア探索調査や P D による検討等も踏まえ、来年度以降に新たな課題を設定することを考えております。

## (3) PD (Program Director プログラムディレクター) について

	よくある質問	回答
9	PD (Program Director プログラムディレクター) はどのような者が担当しますか。公募の度に代わるのでしょうか。また、PD (Program Director) が誰であるかなど詳細はいつ頃示されますか?	担当するフロンティア領域における技術の知見のみならず、技術の社会実装やビジネス等について知見がある者をPDとして設置することを考えております。PDについては現在 TSC において人選中で、決定次第公表いたします。
10	P D は、事業者と具体的にどのタイミングで関わるのですか。 事業が開始した後でしょうか?	P Dまず、提案の採択審査において P D は関与することとしております。採択決定後は、研究開発の実施計画書の内容確認や、年に数回開催予定の領域推進委員会(委託先参加)、さらに中間評価分科会、終了時評価分科会等においても P D は関与します。
11	P Dが各研究開発テーマの進捗や成果及びその発表方法(知財戦略含む)、事業化に向けた体制構築や標準化戦略等を確認とあるが、確認方法を教えてほしい。	実施計画書の記載や領域推進委員会、中間評価分科会等の場で確認させていただくことを想定しております。
12	公募への応募の際に P Dを選択することはできますか?又は事業期間の途中で P Dの変更が可能ですか。	P D は領域毎に TSC が設置するため、事業者による選択や変更は想定しておりません。
13	公募課題の採択はPDが行うのですか?また、「原則、外部性を取り入れた中間評価を行い、その結果、次年度以降の実施が認められたものに限り契約延長を行う」公募要領(1-3)にありますが、これもPDが実施するのですか?	採択審査や中間評価において、外部有識者に加え P Dの検討・判断が加味されます。
14	「成長性の見極め及び成果の出口戦略検討について後押し」とありますが、本事業の研究開発後もサポートが受けられるのでしょうか。具体的に研究開発資金の援助などがあるのでしょうか?	研究開発終了後については、PDを中心に、技術の社会実装や新たなビジネスの 創出等を見据え、新たな課題の設定等を検討いたします。
15		連携が取れないことは想定していませんが、もしあれば、PDとは別に事業の契 約等を管理する担当者が付きますので、相談をお願いいたします。